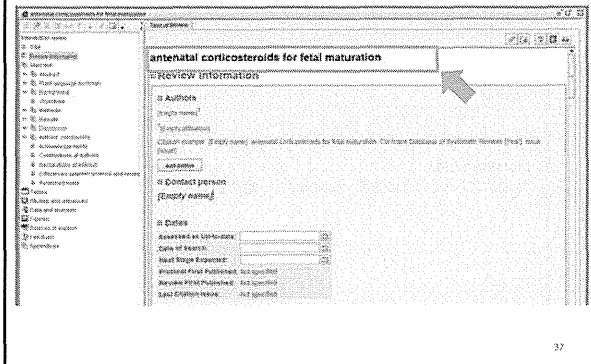
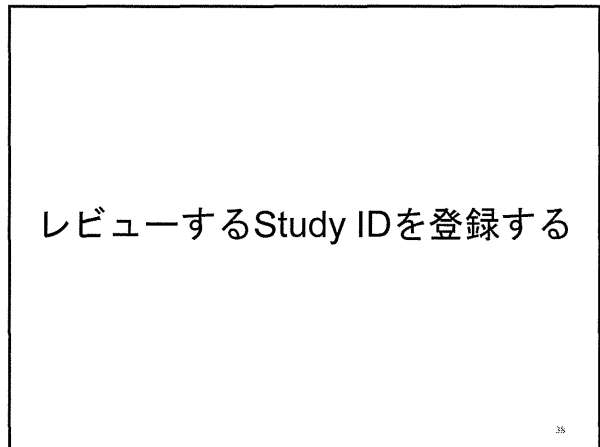


Titleが入力された画面ができる



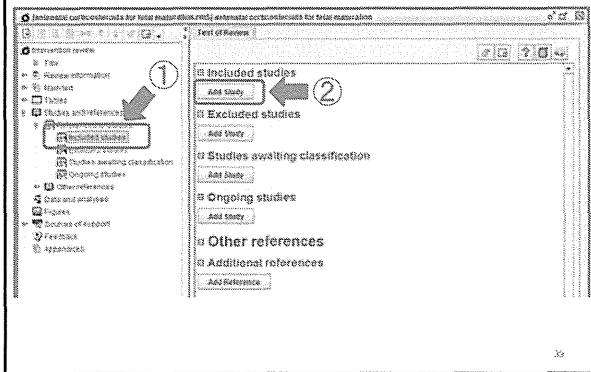
37

レビューするStudy IDを登録する



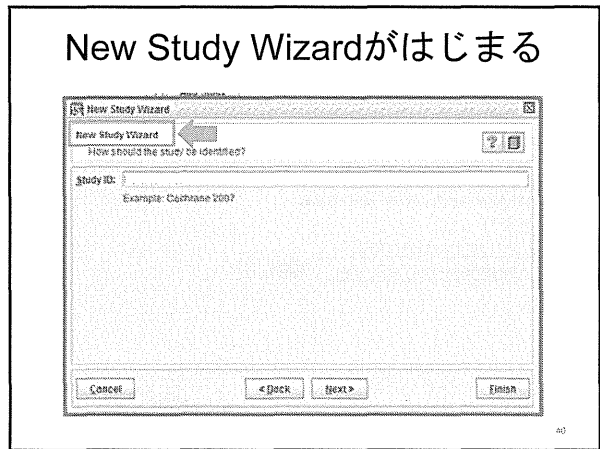
38

レビューするStudy IDを登録する



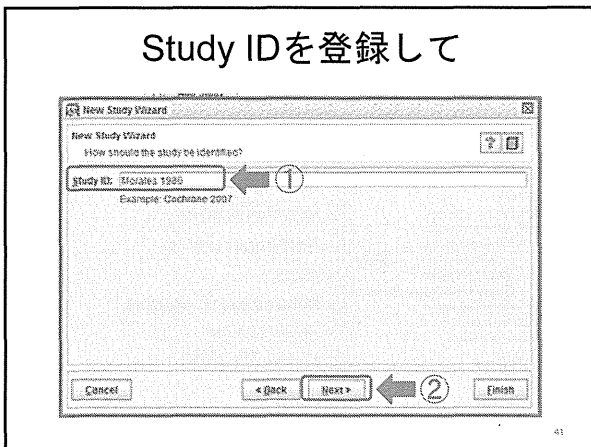
39

New Study Wizardが始まる



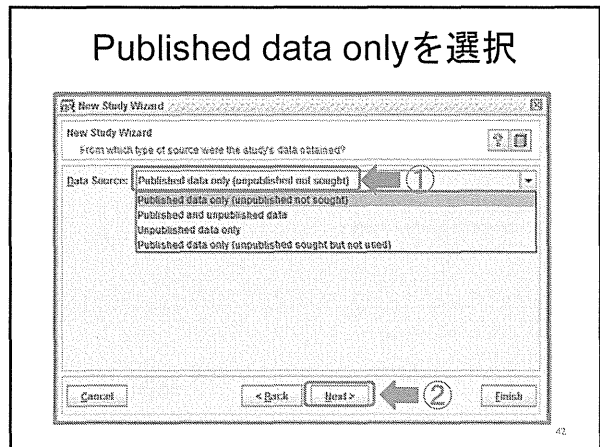
40

Study IDを登録して



41

Published data onlyを選択



42

Yearを確認して

New Study Wizard

In which year was the study done?

Year: 1986

Cancel < Back Next > Finish

Identifiersはそのまま

New Study Wizard

Does the study have other identifiers you wish to add?

Type	Value

Identifiersとは:
StudyについているID番号 (PubMed ID, 臨床試験登録時のIDなど)

Cancel < Back Next > Finish

Add another study in the same section を選択すると

New Study Wizard

Wizard completed

What do you want to do after the wizard is closed?

Nothing

Add a reference for the new study

Add another study in the same section

Cancel < Back Next > Continue

Study ID入力画面になり 次のStudyを登録できる

New Study Wizard

How should the study be identified?

Study ID: []

Example: Cochrane 2007

スライド40からの操作を繰り返して、
IncludedにしたいStudy IDを登録する

Cancel < Back Next > Finish

Nothingを選択すると

New Study Wizard

Wizard completed

What do you want to do after the wizard is closed?

Nothing

Add a reference for the new study

Add another study in the same section

Cancel < Back Next > Finish

登録した1studyが表示される

antenatal corticosteroids for fetal maturation.rmf antenatal corticosteroids for fetal maturation

Intervention review

- Title
- Review information
- Main text
- Tables
- Studies and references
 - References to studies
 - Included studies
 - Morales 1986
 - Excluded studies
 - Studies awaiting classification
 - Ongoing studies
 - Cited references
 - Data and analyses
 - Figures
 - Sources of support
 - Feedback
 - Appendices

Text of Review

Summary of findings tables

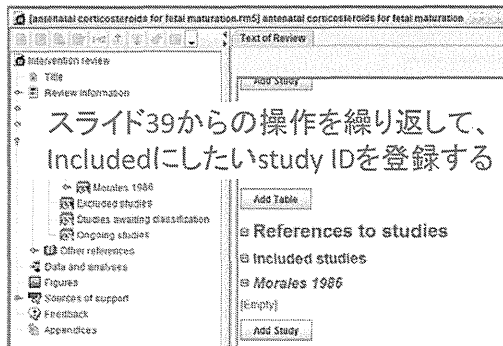
Additional tables

References to studies

Included studies

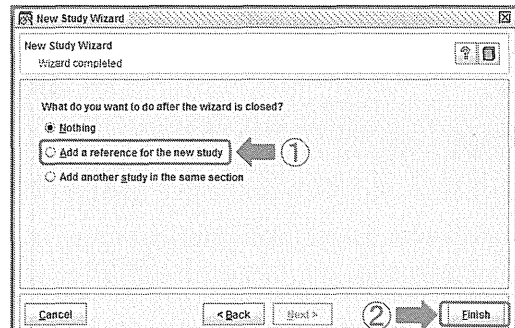
Morales 1986

次のStudy登録をする



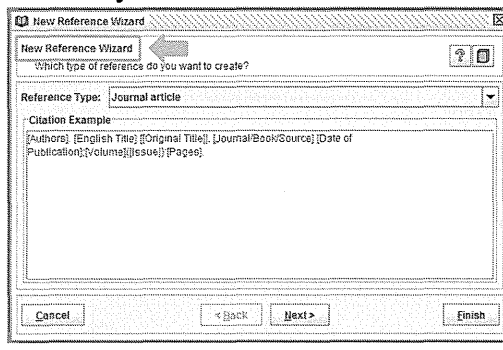
49

Add a reference for the new study を選択すると



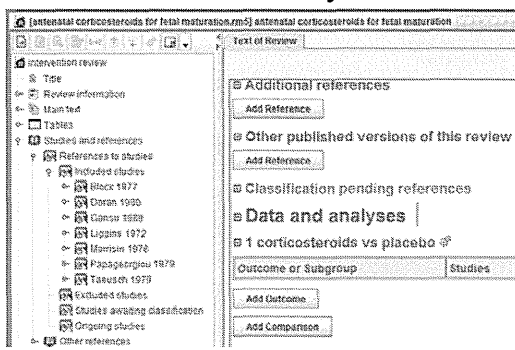
50

New Reference Wizardで Studyの書誌情報入力が始まる



51

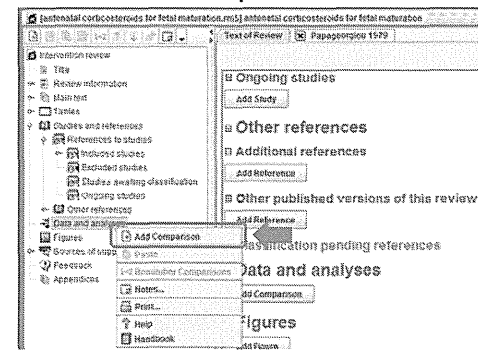
書誌情報入力は後回しにして とりあえず複数のStudy IDを登録する



52

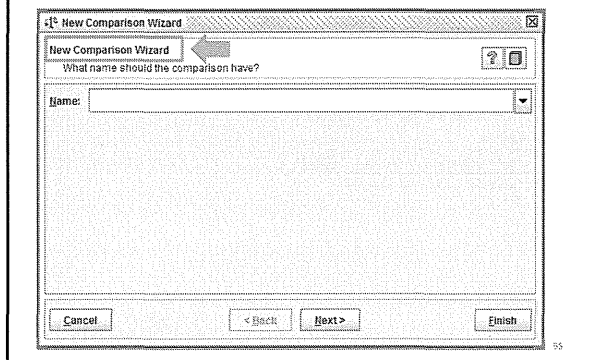
Studyのデータを入力する

Data and analysesを右クリックして Add Comparisonを選択

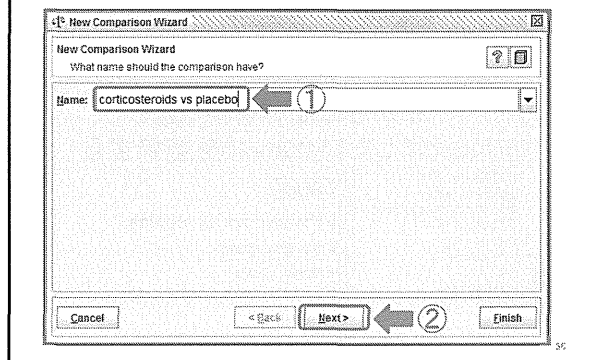


54

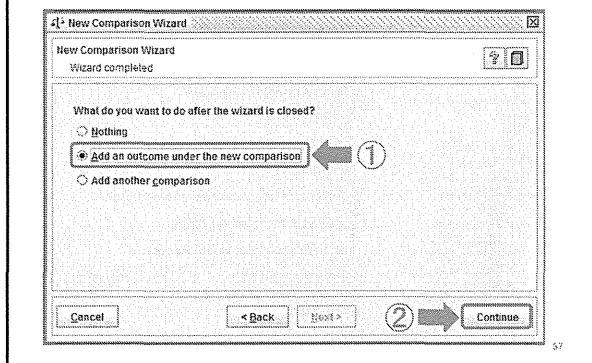
New Comparison Wizardがはじまる



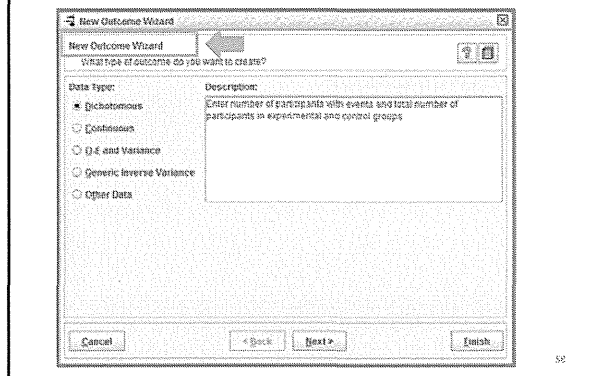
Comparison名を登録する



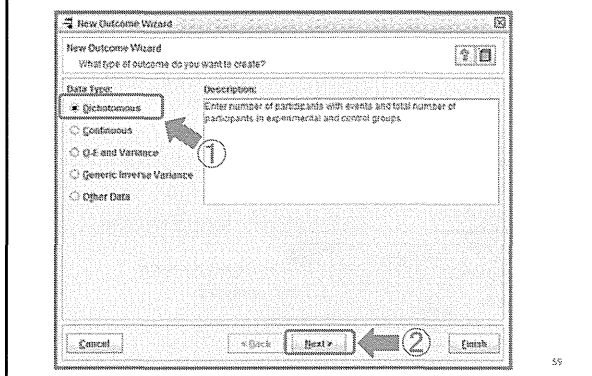
Add an outcome under the new comparison を選び、Outcomeを登録する



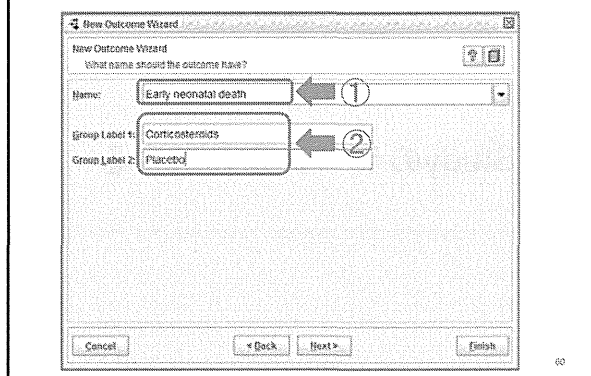
New Outcome Wizardがはじまる



Dichotomousを選択



Outcome名とGroup名を入力



統計モデルと評価指標を選択

New Outcome Wizard
Which analysis method do you want to use?

Statistical Method
 Peto
 Mantel-Haenszel
 Inverse Variance
 EXPLO (E, Var)

Analysis Model
 Fixed Effect
 Random Effects

Effect Measure
 Peto Odds Ratio
 Odds Ratio
 Risk Ratio
 Risk Difference
 Mean Difference
 Std. Mean Difference
 Same of Effect Measure

Buttons: Cancel, < Back, Next >, Finish

表示する信頼区間の幅を選択

New Outcome Wizard
Which analysis details do you want to use?

Totals
 Totals and subtotals
 Subtotals only
 No totals

Study Confidence Interval
 95%
 99%

Total Confidence Interval
 90%
 95%
 99%

Advanced Options
 Test for subgroup differences
 Swap event and non-event

Buttons: Cancel, < Back, Next >, Finish

Forest plotの表示ラベルを入力

New Outcome Wizard
Which graph details do you want to use?

Left Graph Label: Favours [experimental]
 Right Graph Label: Favours [control]

Scale: 100.00

Sort By
 Study ID
 Effect size
 Year of study
 Risk of bias item
 Weight
 User defined order

Buttons: Cancel, < Back, Next >, Finish

Studyの並び順をYearにしておくとForest Plotで年代順に表示される

Add study data for the new outcome を選択し、Study dataを入力

New Outcome Wizard
Wizard completed

To edit other properties for the outcome, open Properties for the outcome after clicking Finish.

What do you want to do after the wizard is closed?
 Nothing
 Edit the new outcome
 Add a subgroup for the new outcome
 Add study data for the new outcome
 Add another outcome for the same comparison

Buttons: Cancel, < Back, Next >, Continue

New Study Data Wizardが始まる

New Study Data Wizard
Which studies do you want to add data for?

Included Studies:
 Block 1977
 Doran 1980
 Gansu 1989
 Liggins 1972
 Morrisin 1978
 Papageorgiou 1979
 Tausch 1979

Filter by:
 Year range: [] to []
 Outcome text: []
 Bias: []

Tip: hold down Ctrl/Command or Shift to select multiple items

Buttons: Cancel, < Back, Next >, Finish

Meta-analysisするStudyをすべて選択

New Study Data Wizard
Which studies do you want to add data for?

Included Studies:
 Block 1977
 Doran 1980
 Gansu 1989
 Liggins 1972
 Morrisin 1978
 Papageorgiou 1979
 Tausch 1979

Filter by:
 Year range: [] to []
 Outcome text: []

Tip: hold down Ctrl/Command or Shift to select multiple items

Buttons: Cancel, < Back, Next >, Finish

Data入力用の表が表示される

ここに、イベント数とN数を入力

67

Data入力とともにForest Plotが表示される

仮のForest Plot表示

68

Forest Plotを作成する

69

Forest Plotを作成する

登録したStudy

Meta-analysisしたStudy

70

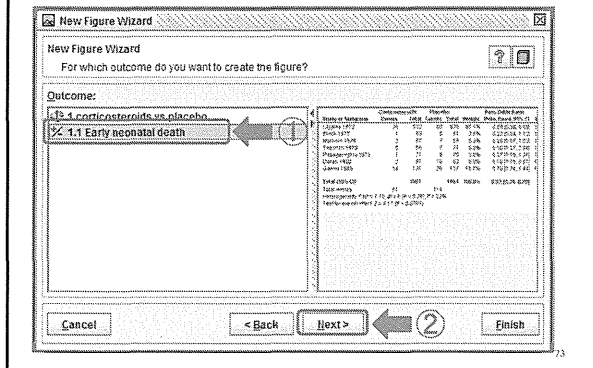
New Figure Wizardがはじまる

71

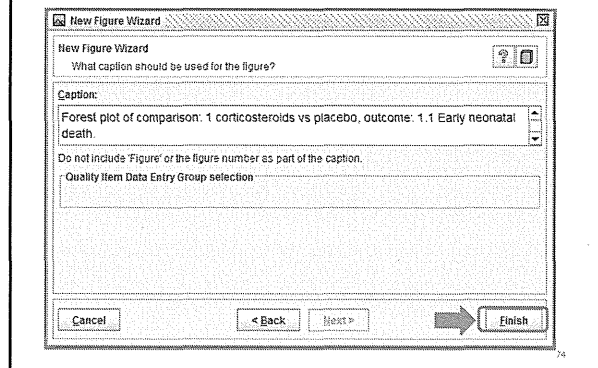
Forest plotを選択

72

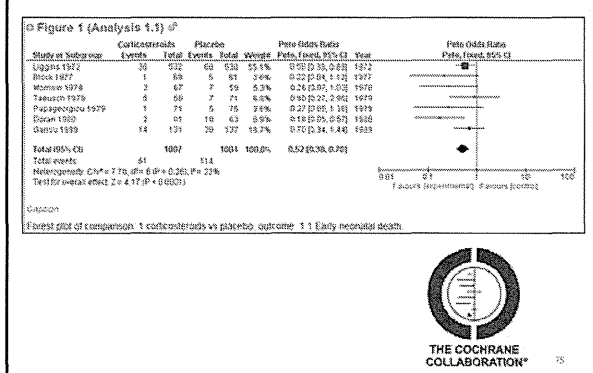
Forest plotを作るOutcomeを選択



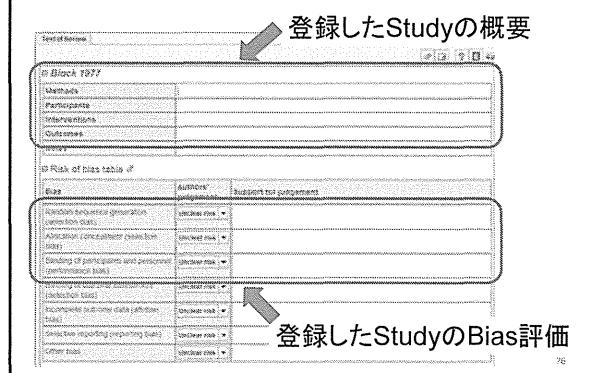
Captionを確認して



Forest plotが完成



その他いろいろありますが...



次回は

- 日時: 12月6日 (土) 9:30-12:00
- 場所: 本館 3階 301教室

次回のために、お願い

- PCを持参してください。
(こちらからRevManをダウンロード
<http://tech.cochrane.org/revman/licensing>)
- メタアナリシスをしてみたいRCTを持参してください。
注) 結果が“イベント数”のもの
お勧め件数 3~5
(特にない方には、こちらで用意します)

次世代育成のための社会科学分野における科学的根拠

研究分担者 原田 隆之 (目白大学)

研究要旨

次世代育成のためには、社会科学分野においてもエビデンスに基づく意思決定を推進していくとともに、エビデンスを産出、利用、発信するための基盤を構築するための基盤を整備していくことが重要である。本研究は、社会科学分野における系統的レビューの執筆、翻訳、国内外の関連機関との連携、学会発表などの諸活動を通して、我が国の社会科学分野におけるエビデンスの産出、利用、発信のための基盤整備をすることを目的とする。

本年度も引き続き、コクランレビューの執筆、キャンベル共同計画との連携、キャンベルレビューの翻訳等を行い、エビデンスの産出、発信、意識啓発などに努めた。我が国の社会科学分野においては、エビデンス・ベーストがまだ十分に浸透していないが、本研究は、ソフト、ハード両面に及ぶ取り組みの基礎を構築するための一助になったと考えられる。

研究協力者:

津富 宏 (静岡県立大学)

A. 研究目的

次世代育成のためには社会科学分野においても、医療や公衆衛生分野同様、国内外のエビデンスを収集し、情報発信をする基盤を構築するとともに、それを元にして我が国におけるエビデンスに基づいた政策決定と母子保健を推進していくことが重要である。本研究では、社会科学分野における系統的レビューの基盤整備を行うことを主たる目的とする。

B. 研究方法

社会科学分野の中でも、特に心理学分野において、コクラン共同計画の方法論に沿った系統的レビューを執筆、出版することによって、国内外にエビデンスを発信、共有することとする。

また、コクラン共同計画の社会科学版とも言うべきキャンベル共同計画の系統的レビュ

ーに関して、国内からのアクセスを容易にすべく、これまでに発表された系統的レビューの翻訳を実施し、ウェブサイト上で無料でアクセスできるような体制を整備、拡充する。

さらに、国内外の関連機関、研究者とのネットワークを通じて、学会発表、論文の執筆、研究会の実施などの機会を利用して意識啓発、情報発信等を行う。

(倫理面への配慮)

系統的レビューは、既に公開されている研究情報を元に行う二次的データ分析が中心であるため、倫理的問題は少ないといえる。しかし、疫学研究の倫理指針および、コクラン共同計画、キャンベル共同計画などの倫理指針を遵守する。

C. 研究結果

まず、コクランレビューの執筆に関しては、「Cognitive-behavioural treatment for amphetamine-type stimulants (ATS) use disorders」（アンフェタミン・タイプ刺激剤使用障害に対する認知行動療法）というタイトルで、コクラン薬物・アルコールグループにタイトル登録、プロトコルの執筆を行った。

タイトル登録は、平成25年2月に完了し、プロトコルは同年5月に提出した。さらに、キャンベル共同計画への同時登録の許可も双方から得た。

プロトコルについては、同年10月にコクラン・ライブラリーにおいて公表された。今後は、プロトコルにしたがってレビュー本体の執筆を行う。

キャンベル共同計画の翻訳については、既に英語で発表されている教育、刑事司法、社会福祉分野等のレビュー本体、および抄録の翻訳を実施した。また、既存のウェブサイトの見直しと整備を行った。

さらに、社会科学分野におけるエビデンス・ベーストの重要性について広く啓蒙するための学会発表や論文執筆を行った。

D. 考察

社会科学分野においては、まだまだエビデンス・ベーストというコンセプトが十分に浸透していない⁽¹⁾。特に、我が国においてはその傾向が顕著である⁽²⁾。

しかし、どのような政策においても、ただ漫然とした「効果」をアプリアリに信じて実施するのではなく、そこに厳密な科学的根拠があるのかどうかを吟味して実施することが、説明責任を果たす上でも、今後より一層重要になってくる。

そのためには、まず地道な啓発や教育活動を通じての意識改革が何より重要であるし、さらには質の高いエビデンスに容易にアクセスできるような基盤作りが大切である。本研究では、そのようなソフト、ハード両面に及

ぶ取り組みの基礎を構築するための一助になったと考えられる。

E. 結論

エビデンスに基づく母子保健のための意思決定には、医療分野のみならず、社会科学分野での基盤整備や情報発信が欠かせない。わが国の社会科学分野において、このような取り組みはまだ始まったばかりであるが、今後もコクランレビューやキャンベルレビューの執筆、情報発信、啓発活動など、さらには医療分野との連携等を継続的に実施していくことが必要である。

引用文献・出典

- 1) Torgerson DJ & Torgerson CJ. Designing Randomised Trials in Health, Education and the Social Science: An Introduction. Palgrave Macmillan, 2008.
- 2) 原田隆之・津谷喜一郎. シリーズ「医療の近接領域および社会科学における EBP の動向」連載開始にあたって.正しい治療と薬の情報 27(5), 61-61, 2012.

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Harada T, Tsutomi H, Mori R, Wilson DB. Cognitive-behavioural treatment for amphetamine-type stimulants (ATS) use disorders. Cochrane Database of Systematic Reviews 2014, Issue 9. Published Online: 7 OCT 2014, DOI: 10.1002/14651858.CD011315
- 2) 原田隆之, 山村桂子, 小柴梓, 大石裕代, 大石雅之. アルコール依存症に対する認知行動療法が飲酒アウトカムに及ぼす効果の研究 日本アルコール・薬物医学会雑誌 2014; 49(5): 249-258.
- 3) 原田隆之. 臨床家として自らを検証する: 嗜癖・アクティングアウト系③ 神村栄一編 認知行動療法実践レッスン: エキスバ

- ートに学ぶ 12 の極意 2014; 131-143.
金剛出版
- 4) 原田隆之 性犯罪治療の国際的動向 榎本稔編 性依存症の治療 2014; 41-52.
金剛出版
- 5) 原田隆之 認知行動療法・禁煙ワークブック: Re-Fresh プログラム 2014 金剛出版
- 6) 原田隆之・笹川智子・高橋稔 大学生の禁煙支持要因の検討 日本禁煙学会雑誌 2014; 9(2): 22-28
2. 学会発表
- 1) 原田隆之 性的嗜癖行動の理解と治療. 日本精神神経学会. 2014年6月27日, 横浜.
- 2) 原田隆之「性依存症」治療の現在と未来. 日本「性とこころ」関連問題学会. 2014年6月28日, 東京.
- 3) 北條正順・原田隆之・野村和孝・嶋田洋徳・斉藤章佳・林開・榎本稔・深間内文彦. Static-99 日本語版を用いた性犯罪者・性依存症者のリスクアセスメント. 日本「性とこころ」関連問題学会. 2014年6月28日, 東京.
- 4) Harada T., Nomura K, & Oishi M. Sex Offender Treatment in the Community Setting. Annual Conference of the European Society of Criminology. 2014年9月11日, プラハ (チェコ)
- 5) 原田隆之 エビデンスに基づいたアディクション治療 (教育講演) 日本アルコール関連問題学会. 2014年10月3日, 横浜.
- 6) 山村桂子・原田隆之・小柴梓・大石裕代・大石雅之 アルコール依存症に対する認知行動療法が飲酒アウトカムに及ぼす効果の検討 (第二報). 日本アルコール・薬物医学会. 2014年10月3日, 横浜.
- 7) Harada T. & Takemura M. Behavior Addictions: Advancing Understanding and Treatment Strategies Across a Wide Range of Disorders. International Society of Addiction Medicine Annual Meeting. 2014年10月6日, 横浜.
- 8) Harada T, Yamamura K, Koshiba A, Oishi H, & Oishi M. The Efficacy of Cognitive-Behavioral Therapy for Japanese Alcoholic Patients. Global Addiction Conference 2014. 2014年11月11日, リオデジャネイロ (ブラジル).

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金
(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 (健やか次世代育成総合研究事業))
「母子保健に関する国際的動向及び情報発信に関する研究」分担研究報告書

日本コクランブランチ設立と人材育成

研究分担者 大田 えりか (成育医療研究センター研究所 室長)

研究要旨

本分担班では、3つの活動を行っている。まず第一に、母子保健分野に関する科学的根拠を定期的に国内外に情報発信する基盤整備を目的とし、コクラン系統的レビューを出版するためのセミナー、ワークショップ、講演、講義などを開催し、人材育成、啓蒙活動を行った。第二に、コクラン系統的レビューの出版である。本年度は、妊娠出産グループサテライトからコクラン系統的レビューが9論文、コクランプロトコールが8論文の計17本出版され、新しいタイトルも5本登録することができ、基盤整備の成果がでてきている。第三に、正式なコクラン日本支部として活動をはじめ、プレスリリースを行った。国際共同研究としては、WHOの妊娠期感染症のガイドライン作成を行っている。

研究協力者

エマ・バーバラ 成育
シャルルク・サデクア 成育
佐々木八十子 成育

A. 研究目的

網羅的・系統的に集積した科学的根拠の成果は医療文化や経済的背景による科学的根拠を含めて整理されるため、国内外の母子保健・医療へレビューの結果が利用され、我が国の保健医療研究による国際社会への貢献としても大きな波及効果があると考えられる。母子保健分野に関する科学的根拠を定期的に国内外に情報発信する基盤整備のための、コクラン共同計画の啓蒙活動の実施、およびコクラン系統的レビュー出版を通じた人材育成を目的とした。

B. 研究方法

本分担班は、大田が担当し、研究協力者としてエディティング専門家のエマ・バーバラ (成育)、研究員のシャルルク・サデクア、佐々木八十子がコクランレビュー出版の支援を行う。

【研究1】

コクラン系統的レビューを出版するためのセミナー、ワークショップ、講演、講義などを開催し、人材育成、啓蒙活動を行う。

【研究2】

コクラン系統的レビューのプロトコールおよびフルレビューの著者のサポートを行い、出版する。

【研究3】

コクラン豪州センターと密接に連携し、コクラン日本支部を設立した。また、WHOのリプロダクティブヘルスリサーチと連携しWHOの妊娠期感染症のガイドライン関連の20のコクラン系統的レビューのupdateを行った。

(倫理面への配慮)

特になし。

C. 研究結果

【研究1】

本年度は、コクラン日本支部を設立し、プレスリリースを行った(参考資料1)。

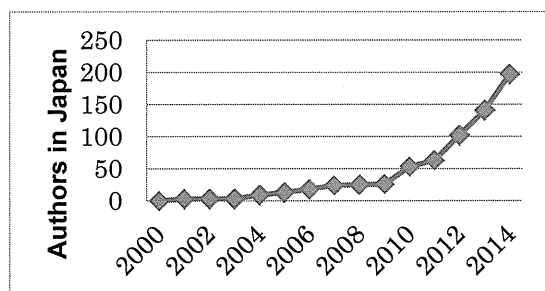
5月にコクランのCEOであるマークウィルソンが来日し、厚生労働省にて記者会見を行った。



また、成育にてコクランのワークショップを3回（タイトルレジストレーション6月、プロトコール9月、フルレビュー2月）実施した。（参考資料2、参加者アンケート参照）。また国立精神神経センターと、国立がんセンターと国立成育医療研究センターと3ナショセン合同で、昨年度に引き続き12月に第二回メタアナリシス入門講座を実施した。成育医療研究センターのセミナー、東京大学大学院、東京医科歯科大学大学院、大分県立看護大学にて系統的レビュー作成およびコクラン共同計画に関する講義を行いワークショップ等を含めてのべ300名以上が参加した。また助産学雑誌に、日本語でコクラン系統的レビューの解説特集の連載を1年間行い啓蒙活動を行った。

日本からのコクラン共同計画の著者数は、2015年2月でおよそ200名となり順調に増加している（表1）。日本からのコクラン Archie 登録者数は300名となった。

表1 日本からのコクラン著者数



【研究2】

本年度は、研究班全体でコクランプロトコールが9本、コクラン系統的レビューが8本出版された。以下、結果のサマリーを記載する。

- 妊娠中の予防的抗生剤の内服は、周産期アウトカムに関連するかどうかのコクラン系統的レビュー、早産や早産の前期破水は減少しなかったが、産後の子宮内膜炎や早産の早期破水、gonococcal感染症のリスクは減少した。
- 帝王切開後の感染症を予防するための皮膚の消毒で効果があるものはなにかをコクラン系統的レビューで明らかにした。
- コミュニティーレベルのHIV予防行動変容介入は、HIV発症に効果はなかったが、一部のSTIには効果があった。
- 陣痛発来に、催眠介入が有効かどうかを検証したコクラン系統的レビュー、含まれる臨床試験が今回はなかった。
- 妊娠中の女性への亜鉛サプリメント介入は、早産を比較群に比べて14%減らす効果がみられた。

【研究3】

コクラン日本支部を設立し活動を開始した。国際共同研究としては、WHOの妊娠期の感染症のガイドライン作成のためのコクランレビューを7月から3か月イギリスの妊娠出産グループに行き、関連する20論文 update しすべて出版された。また、1月16日付けで、コクラン妊娠出産グループの associate editor に就

任した。3月16・17日にリバプールでコクラン妊娠出産グループのエディターズミーティングがあり、コクランの新しい報告方法や、解析手法などの講義や会議に参加する予定である。

D. 考察

本年度は、コクラン日本支部のプレスリリースをはじめとして、ワークショップ、講演、講義などでコクラン共同計画の認知度を高め、系統的レビューの方法論を多くの参加者に伝えることができた。ワークショップの開催も、コクラン系統的レビューの著者が増加し、チューターや講師として参加し協力を得ることができている。コクラン系統的レビューは、著者の増加に伴い、順調に出版数を増加させている。

コクラン日本支部の活動が開始し、WHOとの共同研究も順調に進んでいる。人材育成の基盤を強化して、質を重視し地道な活動を重ねて実績を積むことが必要である。日本からの貢献度をさらにあげていくことが重要である。

E. 結論

コクラン日本支部開始のプレスリリースを行い、認知度を高めることができた。今後もさらに人材育成の基盤を強化して、質を重視し地道な活動を重ねて実績を積み世界に貢献していくことが必要である。

F. 研究発表

1. 原著論文

- 1) Mackeen AD, Packard RE, Ota E, Berghella V, Baxter JK. Timing of intravenous prophylactic antibiotics for preventing postpartum infectious morbidity in women undergoing cesarean delivery. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014, Issue 12. Art. No.: CD009516. DOI: 10.1002/14651858.CD009516.pub2.

- 2) Hadiati DR, Hakimi M, Nurdiati DS, Ota E. Skin preparation for preventing infection following caesarean section. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014, Issue 9. Art. No.: CD007462. DOI: 10.1002/14651858.CD007462.pub3.
- 3) Nishi D, Shirakawa MN, Ota E, Hanada N, Mori R. Hypnosis for induction of labour. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014, Issue 8. Art. No.: CD010852. DOI: 10.1002/14651858.CD010852.pub2.
- 4) Moreno R, Nababan HY, Ota E, Wariki WMV, Ezoe S, Gilmour S, Shibuya K. Structural and community-level interventions for increasing condom use to prevent the transmission of HIV and other sexually transmitted infections. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014, Issue 7. Art. No.: CD003363. DOI: 10.1002/14651858.CD003363.pub3.
- 5) Shahrook S, Mori R, Ochirbat T, Gomi H. Strategies of testing for syphilis during pregnancy. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014, Issue 10. Art. No.: CD010385. DOI: 10.1002/14651858.CD010385.pub2.
- 6) Mackeen AD, Packard RE, Ota E, Speer L. Antibiotic regimens for postpartum endometritis. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2015, Issue 2. Art. No.: CD001067. DOI: 10.1002/14651858.CD001067.pub3.
- 7) Ota E, Mori R, Middleton P, Tobe-Gai R, Mahomed K, Miyazaki C, Bhutta ZA. Zinc supplementation for improving pregnancy and infant outcome. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2015, Issue 2. Art. No.: CD000230. DOI: 10.1002/14651858.CD000230.pub5.
- 8) Thinkhamrop J, Hofmeyr GJ, Adetoro O, Lumbiganon P, Ota E. Antibiotic prophylaxis during the second and third trimester to reduce adverse pregnancy outcomes and morbidity. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2015, Issue 1. Art. No.: CD002250. DOI: 10.1002/14651858.CD002250.pub2.
- 9) Moriichi A, Tomita N, Sado M, Ota E, Mori R. Interventions for insomnia during pregnancy (Protocol). *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014,

- Issue 10. Art. No.: CD011355. DOI: 10.1002/14651858.CD011355.
- 10) Mazda Y, Ota E, Mori R, Terui K. Drugs for general anaesthesia for caesarean section (Protocol). Cochrane Database of Systematic Reviews 2014, Issue 10. Art. No.: CD011348. DOI: 10.1002/14651858.CD011348.
 - 11) Haruna M, Matsuzaki M, Ota E, Shiraishi M, Hanada N, Mori R. Guided imagery for treating hypertension in pregnancy (Protocol). Cochrane Database of Systematic Reviews 2014, Issue 10. Art. No.: CD011337. DOI: 10.1002/14651858.CD011337.
 - 12) Wariki WMV, Goto Y, Ota E, Mori R. Cyclo-oxygenase (COX) inhibitors for threatened miscarriage (Protocol). Cochrane Database of Systematic Reviews 2014, Issue 9. Art. No.: CD011310. DOI: 10.1002/14651858.CD011310.
 - 13) Harada T, Tsutomi H, Mori R, Wilson DB. Cognitive-behavioural treatment for amphetamine-type stimulants (ATS) use disorders (Protocol). Cochrane Database of Systematic Reviews 2014, Issue 10. Art. No.: CD011315. DOI: 10.1002/14651858.CD011315.
 - 14) Shahrook S, Hanada N, Sawada K, Ota E, Mori R. Vitamin K supplementation during pregnancy for improving outcomes (Protocol). Cochrane Database of Systematic Reviews 2014, Issue 1. Art. No.: CD010920. DOI: 10.1002/14651858.CD010920.
 - 15) Futamura M, Ferguson L, Vakirlis E, Kojima R, Roberts A, Mori R. Leukotriene receptor antagonists for atopic eczema (Protocol). Cochrane Database of Systematic Reviews 2014, Issue 7. Art. No.: CD011224. DOI: 10.1002/14651858.CD011224.
 - 16) Hanada N, Matsuzaki M, Ota E, Mori R. Psychosocial and educational interventions in latent phase or early labour for improving birth outcomes (Protocol). Cochrane Database of Systematic Reviews 2015, Issue 2. Art. No.: CD011516. DOI: 10.1002/14651858.CD011516.
 - 17) Michihata N, Yamamoto KH, Mukaigawara M, Miyairi I, Mori R. Group B streptococcus immunisation during pregnancy for improving outcomes (Protocol). Cochrane Database of Systematic Reviews 2015, Issue 1. Art. No.: CD011496. DOI: 10.1002/14651858.CD011496.
2. 総説
- 1) コクランレビューに学ぶ 助産ケアのエビデンス [2] 分娩時の女性への継続的サポートはどんな効果があるの? 助産雑誌, 68(2): 158-161.
 - 2) コクランレビューに学ぶ 助産ケアのエビデンス [3] 助産師による継続ケアって、助産師以外のケアモデルと比べてどんな効果があるの? 助産雑誌, 68(3): 248-251.
 - 3) コクランレビューに学ぶ 助産ケアのエビデンス [4] 正期産の新生児では、臍帯結紮するタイミングで母子のアウトカムに違いが出るか? 助産雑誌, 68(4): 342-345.
 - 4) コクランレビューに学ぶ 助産ケアのエビデンス [5] 分娩時の連続的な胎児心拍数陣痛計 (CTG) によるモニタリングと、陣痛間歇時の児心音聴取で、母子のアウトカムに違いが出るか? 助産雑誌, 68(5): 458-461.
 - 5) 助産ケアのエビデンス [6] 陣痛の緩和にはどの介入が効果があるのか? 助産雑誌, 68(6): 550-553.
 - 6) コクランレビューに学ぶ 娩誘発では、アウトカムに違いが出るか? 助産雑誌, 68(7): 626-629.
 - 7) コクランレビューに学ぶ 助産ケアのエビデンス [8] 早産の前期破水時の抗生剤内服は、どのような影響や効果があるか? 助産雑誌, 68(8): 750-753.
 - 8) コクランレビューに学ぶ 助産ケアのエビデンス [9] マンモグラフィーによる乳がんスクリーニングは、乳がんの死亡率を下げるのに有効か? 助産雑誌, 68(9): 832-835.
 - 9) コクランレビューに学ぶ 助産ケアのエビデンス [10] 産後のダイエットに有効なのは食事または運動、それとも両方? 助産雑誌, 68(10).
 - 10) 臨床研究のメタ解析とその落とし穴. 臨床精神医学 2014; 43 (12) : 1755-1761.
 - 11) 妊娠中から産後 6 ヶ月までの電話サポートによるケアは効果があるのか? 助産雑誌. 2014; 68 (12) : 1347-81682.
3. 学会発表
- 1) Ota E, Yoneoka D. Evaluating abstracts to predict low risk-of-bias RCTs using a natural language processing approach. Poster presentation. Twenty-second

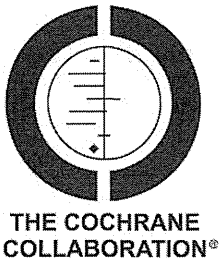
Cochrane colloquium, Hyderabad
India, 25 September 2014.

- 2) Rahman MM, Abe SK, Rahman MS,
Kanda M, Narita S, Ota E et al.
Maternal anaemia and risk of
adverse birth and health outcomes:
systematic review and
meta-analysis. Poster presentation.

Twenty-second Cochrane
colloquium, Hyderabad India, 26
September 2014.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし



＜本件に関する連絡先＞

独立行政法人国立成育医療研究センター
電話: 03-3416-0181 (代表)
取材に関すること: 佐藤 徹 (サトウ トオル)
総務部総務課専門職(広報係)
(内線 7783) Email: sato-tr@ncchd.go.jp
コクラン日本支部に関すること: 森 臨太郎(モリ リンタロウ)
＜所属名＞政策科学部 部長
(内線 4264) Email: mori-r@ncchd.go.jp

平成 26 年 5 月 30 日

報道関係者 各位

独立行政法人国立成育医療研究センター

コクラン日本支部 国立成育医療研究センターに設立

国内初のコクラン日本支部がスタートします。
日本支部は、コクラン系統的レビュー作成のサポートおよびトレーニングを提供します。
日本の医療や政策に科学的根拠に基づいた意思決定を促進します。

本プレスリリースのポイント

- 日本でのコクラン系統的レビュー出版・著者へのトレーニングの功績が認められ、平成 26 年 2 月末日にコクラン共同計画豪州コクランセンターから正式な日本支部として国内で初めて認可されました。
- 5月30日の記者会見に、コクラン共同計画の CEO の Mark Wilson がイギリスから来日する予定です。
- 国立成育医療研究センター研究所政策科学部部长森臨太郎と京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻教授古川壽亮と豪州コクランセンター日本支部の共同代表を務めます。事務局は、国立成育医療研究センター研究所に置き、医療政策科学研究室長大田えりかが事務局長を務めます。
- 日本支部では、コクラン系統的レビュー作成のサポートおよびトレーニングを提供し、日本の医療や政策の科学的根拠に基づいた意思決定を促進します。

【コクラン日本支部ができるメリット】

- 1) 根拠に基づく医療の浸透による診療の質向上、それによる患者アウトカムの向上
- 2) 医療者と患者双方に、よりバランスの取れた確かな情報の提供と共有による関係性の向上
- 3) 臨床研究の推進(手法も利益の相反も含めて質の向上)

【コクラン日本支部の主な活動】

成育医療センターに平成 25 年 6 月日本で初めてのコクラン妊娠出産グループ日本支部が、日本で唯一コクラン共同計画の正式組織として設立し、以降の成果に高い評価を得ています。

日本支部は、日本におけるコクラン共同計画を推進し、サポートすることを目指しています。

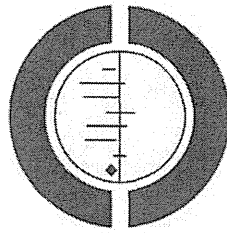
以下の5つの活動を主にを行います。

- 1) コクラン系統的レビューの新規の著者を増やす。
- 2) コクラン系統的レビューのトレーニング・ワークショップを実施する。
- 3) コクラン系統的レビュー出版のためのサポートを行う。
- 4) 日本におけるコクランライブラリの利用を促進する。
- 5) コクラン系統的レビューのサマリーの翻訳を推進する。(コクランレビューの翻訳に関しては、日本医療機能評価機構医療情報サービス Minds が長く行っており、日本支部は日本医療機能評価機構と連携して、日本におけるレビューの浸透を推進していく予定です。)

【コクラン共同計画とは】

コクラン共同計画は1992年にオックスフォードで設立された国際的な非営利団体であり、研究者、医療従事者、医療消費者、介護者、アドボカシー運動の支援者、保健医療に関心のある人々の独立した世界的なネットワークである。コクラン共同計画によって、系統的レビューと呼ばれる、同じ研究課題に関して検討した研究を網羅的・系統的に検索しその結果を質に応じて吟味したうえで必要に応じて統計学的な統合を行う手法が確立された。コクランは、研究を通して得られた膨大な量のエビデンスを、医療に関する意思決定に役立てるという課題に応えている。コクランは、企業からの資金提供やその他の利害関係のない、信頼性の高い、アクセス可能な医療保健情報を生み出している。現在 52 の分野で行われ、コクランレビューの結果を診療方針に応用していくことが根拠に基づく医療の同義語ともなるくらい浸透し、医療分野における十大発明の一つまで言われている。現在に至るまで 120 か国以上の研究者・医療者が参加し、5000 以上に上るレビューが作成され、世界保健機関(WHO)をはじめ世界中の保健医療分野に影響している。

ホームページ: www.cochrane.org5 ツイッター: @cochranecollab



THE JAPANESE
COCHRANE BRANCH

The Japanese Cochrane Branch

成育医療センター主催
記者会見のご案内

記

日時：2014年5月30日（金） 午後2時～

場所：9F 記者会見室

内容：日本初の豪州コクランセンター日本支部がスタートします。

コクラン共同計画のCEOのMark Wilsonが来日します。

（詳細は当日配布しますプレスリリースをご参照ください）



Official launch of the Japanese Cochrane Branch

2014年5月30日（金）午後2時～

厚生労働省 9F 記者会見室

- 14:00～ コクラン共同計画 CEO Mark Wilson
- 14:10～ 成育医療研究センター社会・臨床研究所 所長 吉川徳茂
- 14:15～ コクラン日本支部共同代表 成育医療センター研究所 部長 森臨太郎
- 14:20～ 医療者、研究者、医療消費者の代表の方のコメント
- 14:25～ 質疑応答

【コクラン共同計画とは】

コクラン共同計画は1992年にオックスフォードで設立された国際的な非営利団体であり、研究者、医療従事者、医療消費者、介護者、アドボカシー運動の支援者、保健医療に関心のある人々の独立した世界的なネットワークである。コクラン共同計画によって、系統的レビューと呼ばれる、同じ研究課題に関して検討した研究を網羅的・系統的に検索しその結果を質に応じて吟味したうえで必要に応じて統計学的な統合を行う手法が確立された。コクランは、研究を通して得られた膨大な量のエビデンスを、医療に関する意思決定に役立てるという課題に答えている。コクランは、企業からの資金提供やその他の利害関係のない、信頼性の高い、アクセス可能な保健医療情報を生み出している。

www.cochrane.org

Twitter @cochranecollab

【アンケート】コクラン日本支部 タイトル登録セミナー

ワークショップへご参加いただきありがとうございます。皆様のお声を反映させ、今後のより良いワークショップの運営に努めてまいりたいと考えております。ぜひとも下記のアンケートにご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

*必須

今回のセミナーはいかがでしたか？ *

- 悪い
- ふつう
- 良い

役に立ちましたか？ *

- 悪い
- ふつう
- 良い

講師の説明の速さはいかがでしたか？ *

- 悪い
- ふつう
- 良い

内容はわかり易かったですか？ *

- 悪い
- ふつう
- 良い

配布された資料はわかり易かったですか？ *

- 悪い
- ふつう
- 良い

良く準備されていたと思いますか？ *

- 悪い
- ふつう
- 良い

総体的にご満足いただけましたか？ *

- 悪い
- ふつう
- 良い

今後コクラン系統的レビューの著者として参加を希望されますか？ *

- はい
- いいえ

どのような分野、またはタイトルを希望していますか？

今後の改善点についてご意見を聞かせてください。*
(告知方法、事前のご案内、プログラム、配布資料、会場のセッティング、音響など)

その他、ご希望やご質問などありましたら教えてください。

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

Powered by


このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。
不正行為の報告 - 利用規約 - 追加規約

タイムスタンプ	今回のセミナーはいかがでしたか？	役に立ちましたか？	講師の説明の進み具合が良かったですか？	内容はわかり易かったですか？	配布された資料はわかり易かったですか？	良く準備されていたと思いますか？	総体的にご満足いただけましたか？	今後コクラン系統的レビューの著者として参加を希望されますか？	どのような分野、またはタイトルを希望していますか？	今後の改善点についてご意見を聞かせてください。	その他、ご希望やご質問などありましたら教えてください。
2014/6/20 9:34	良い	良い	良い	ふつう	良い	ふつう	良い	いいえ		少し寒かった。	
2014/6/20 9:37	良い	良い	良い	良い	良い	良い	良い	はい	Hepatobioiary diseasesに 관심이あります。	特にありません。	よろしくお願いたします。
2014/6/20 9:53	ふつう	良い	良い	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	はい		特に問題ないが遠方から来ている人のことを考慮するとう少し中身を濃いものにした方がよい	
2014/6/20 10:11	良い	良い	良い	良い	良い	良い	良い	はい	その他の仕事との関係があるので、確実ではないのですが、専門領域である膠原病リウマチ性疾患から、何らかのタイトルで検討したいと思っています。	森先生の総論と大田先生の具体的な内容のお話して、資料もとても分かりやすかったです。私自身はとても満足でした。《告知方法については、直接大田先生より教えていただいたので、申し上げます（森先生）	
2014/6/20 10:26	良い	良い	良い	良い	良い	ふつう	良い	はい	依存症に対する心理療法、嗜好品の効果を検討した観察研究、に関するレビュー	色々な領域のレビューグループの紹介をもっとして良かった。	
2014/6/20 10:29	良い	良い	良い	ふつう	ふつう	良い	良い	はい	無痛分娩 産褥出血 セルシーバーの使用について 切迫早産	特に無かったです。	深く印象的でした。継続して、参加したいとおもいました。
2014/6/20 11:01	良い	良い	ふつう	良い	良い	良い	良い	いいえ		事例を通して、説明していただいたのが良かった。これからも、事例を出していただけるとありがたいです。	
2014/6/20 12:28	良い	良い	良い	良い	良い	良い	良い	いいえ		今後ともよろしく願ひ上げる次第であります。	
2014/6/20 13:51	良い	良い	良い	良い	良い	良い	良い	はい		What are the current main pros and cons about Cochrane reviews? Are there examples of any guideline to work with different types of limitations scenarios such as limitation of RCT data or poor quality of existing study trials?	
2014/6/20 16:05	良い	良い	良い	良い	良い	良い	良い	はい	周産期分野	2か月前くらいまでにメーリングリストでお知らせ頂ければ予定を立てやすいのでうれしいです。	森先生がちらっと言われた論文検索のコツ (ITやAIをつけたら... *アスタリスクをつけたら複数名詞も拾ってくるなど) についてコクランレビューの系統講義のなかでセッション (20分くらいで十分だと思います) を設けて欲しいと思いました。
2014/6/20 17:47	良い	良い	良い	良い	良い	良い	良い	はい		講義の内容は非常に分かりやすく、家に帰ってから復習がしやすいです。せつかく最初に自己紹介をしたので、時間的余裕があればグループワークなどがあっても良いと思いました。	2時間という短い時間でしたが、内容が非常に濃く、参加して良かったと思います。また9月にお世話になろうと思います。どうぞよろしくお願いたします。
2014/6/20 19:36	良い	良い	ふつう	良い	良い	良い	良い	はい		日時のアナウンスはもう少し早めがうれしいです。よろしくお願いたします。	
2014/6/21 20:29	良い	良い	良い	良い	良い	良い	良い	はい	(まだ先の話になると思うが) 周産期・母子保健分野	特にありません	とてもわかりやすいセミナーでした。プロトコルとレビューのセミナーも楽しみです。今回と同じように、先生方の実際の例を踏まえた内容で行っていただけるととてもイメージが湧き、わかりやすいです。
2014/6/22 20:19	良い	良い	良い	良い	良い	良い	良い	はい	周産期領域の中で、産科領域では妊娠悪阻、早産・CAMあたりに関心があります。またコクランライブラリーを何も検索していないので、検索してみてもう少し考えてみます。	特になし	
2014/6/22 22:50	良い	良い	良い	良い	良い	良い	良い	はい	clinical psychology	とても勉強になりました。説明もとてもわかりやすく、丁寧で、具体的にどのように登録を進めていけば良いのか、理解することができました。最高な時でした。今後頑張って、コクランレビューに載せてみたいと思います。ありがとうございました。	
2014/6/23 7:00	良い	良い	ふつう	良い	ふつう	ふつう	良い	はい	anesthesia	申し込みの後、参加登録受付の案内が遅く参加可能なか不安であった。当日の最終案内はもう少し情報が欲しい。	
2014/6/23 11:06	良い	良い	良い	良い	ふつう	ふつう	良い	はい	以下に関するものに興味があります ・無痛分娩 ・分娩誘発および促進でのオキシトシン使用	特に、問題は感じませんでした。	今後、コクラン系統的レビューを試みたいのですが、来年度2月のワークショップに参加できない可能性があります。その場合はどのようにしたらよいかと思っています。
2014/6/23 11:13	良い	良い	良い	良い	ふつう	良い	良い	はい	周産期と循環器の協働が必要な分野	資料が事前配布されているとよいと思います。	
2014/6/25 16:17	良い	良い	ふつう	良い	良い	ふつう	良い	はい	特に特定の希望・えり好みはありませんが、自身の経験上、耳鼻科領域、救急・集中治療領域。	特に運営面と違和感は感じなかったです。	ありがとうございました。